



- ・各利用者の状況に合わせた情報提供のやり方にする必要がある
- ・目的は良いと思う。
- ・障がい者雇用の窓口が広がっていると思う。
- ・社会は変わっているのに利用者に情報提供ができていない。
- ・チャレンジする機会を与えられていない。
- ・実際やると利用者の混乱や関係機関のキャパオーバー。
- ・メリハリをつけないといけない。
- ・選択支援に関して行政や他の福祉と熱量が違っている。
- ・高松ももう少し分けし地域の担当が決まれば選択支援を行わなくても地域連携が取りやすくなり一般就労させやすくなる。

#### ② 企業開拓、企業への働きかけ

- ・香川県は中小企業が多いので、中小企業での障害者雇用促進ポイントになる。
- ・法定雇用率未達成企業へ、ナカポツと連携して働きかけをしている。
- ・利用者が選択できることを意識して開拓している。
- ・学生からの依頼で企業に訪問する場合がある。
- ・バリアフリーだけの対応では利用し辛いこともある。
- ・ナビゲーションブックを作成し、障害特性の理解を促す。

#### ③ 離職を防ぐための対策

- ・仕事を細分化する。
- ・定期的な定着訪問の実施。
- ・企業と支援機関、支援機関同士の情報共有が重要。
- ・問題が多様化している背景があるため、一つの支援機関だけでは解決は困難。多機関での役割分担が必要。

#### ④ 高次脳機能障害、難病の方への支援

- ・能力が低下していることに対してどのように対応するか？
- ・賃金の問題。
- ・うどんに関する仕事ではなく清掃の仕事をしてもらっている。
- ・他の利用者、知的の方たちとの連携問題。
- ・本人の能力低下だけではなく、環境の変化により、能力低下に見えていることもあるのではないか。
- ・会社側は彼のために仕事を作っている。
- ・毎日、コミュニケーションをはかっている。
- ・企業努力として利用者の交通費削減などしている。

#### ⑤ その他

- ・A型から一般就労する利用者について、自己理解が不十分な方が多い傾向がある。

	<ul style="list-style-type: none"><li>・相談支援事業所へ、サービスの利用ではなく話を聞いてほしいというニーズ多い。</li></ul>
--	--

議題2：各機関からの連絡事項	
議事	<ul style="list-style-type: none"><li>・リハセン 「ロボットと拓く未来の暮らし」イベント案内</li><li>・ピーノ 利用者募集の案内。</li></ul>